



✓ 将来構想の考え方

18歳人口の減少、大学入試改革など、大学を取り巻く環境は大きく変化してきている。また、国立大学の半数が地域活性型の大学を目指しており、地域貢献が地方公立大学を特色づけるものではなくってきている。

こうした状況の中で、大学運営の実務的方針である中期計画を補い、社会の変化に対応していくために、今後の大学の在り方をどのようにしていくかという具体的な考えを示すことを目的として、将来構想を策定した。

✓ 基本方針

将来構想は、本学がこれまでに蓄積してきた教育、研究の資産を基礎に、それをより充実させることと新たな発展に導くものである。

本学には幅広い学科があり、各学科が高度な専門性を備えている。教育と研究、その結果としての地域貢献という、地方公立大学の果たすべき使命だけでなく、本学の理念である「持続可能な循環型社会の構築に貢献する」を実現するための方向性を将来構想に示す。

✓ アドミッション・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに関わる内容

⊕ 入試改革

- ・学力の3要素、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・協調性」を判定するための入試の実施。
- ・志願者をまず全国に求め、入試方法を全学科で統一する。

⊕ 初年次教育・基礎教育の充実

- ・入学生の学力低下が予想されることから、入学前教育対策を行う。
- ・基礎教育と専門教育の連携及び学部と博士前期課程の教育システムの見直し。

⊕ 高大接続の方向性

- ・県内での知名度向上を行いつつ、全国から受験生を呼ぶよう入試改編を行う。

✓ カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシー、および学部と大学院に関わる内容

⊕ 講義形態の改革とカリキュラム

- ・50分授業、100分授業等の柔軟な講義形態の採用。
- ・学科の理解を広げ、学ぶ意欲を高めるためのカリキュラムの実施。

⊕ 学部、大学院と4年制、6年制

- ・基礎教育の徹底、高度化できる専門教育の実施、キャリア形成の充実。

⊕ 学部の2学群化

- ・より学術的で、柔軟で多様な教育・研究への対応。

⊕ 大学院教育の改編と5年制の導入

- ・高度化する社会的要求に応えるための、一貫教育の検討。

✓ 研究・地域貢献

⊕ 研究費に関わる取り組み、研究センター

- ・教員研究費配分の見直し、学内外における共同研究の充実。
- ・更なる産学連携を目的とした、新たなセンター設置の検討。

⊕ 国際交流

- ・本学学生が留学しやすい環境・支援の整備。
- ・交流地域、交流大学の拡充。

✓ 組織・運営

⊕ 総合デザイン工学科の将来像

- ・社会のニーズに応じていくために、体制及び主要分野の見直しを実施。

⊕ 基礎教育センターの確立

- ・基礎教育の充実及び各学科との連携を強化するための体制の構築。

⊕ 大学、大学院の定員数と、教員定数と教員人事

- ・学部の定員を堅持、大学院は増員し、教員数の増加を目指す。

⊕ 大学の組織に関する問題

- ・学生が入学してから卒業するまでの成果を集積し活用するための組織づくり。

⊕ 大学の環境

- ・地域に開かれ、地域の核となる大学づくり。

⊕ 学科改編、専攻改編、6年制

- ・各々の特性を活かし、協働していくための組織づくり。